



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年11月7日

上場取引所 東

上場会社名 イートアンド株式会社
 コード番号 2882 URL <http://www.eat-and.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成26年11月10日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(氏名) 文野 直樹
 (氏名) 皆川 秀一
 配当支払開始予定日

TEL 03-6402-3961
 平成26年12月5日

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	10,041	2.0	221	△52.3	245	△48.4	121	△57.6
26年3月期第2四半期	9,840	2.2	464	△12.4	476	△11.2	285	△9.6

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	27.65	27.29
26年3月期第2四半期	74.81	74.63

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第2四半期	11,090	4,460	40.2	1,016.96
26年3月期	10,498	4,394	41.8	1,001.83

(参考)自己資本 27年3月期第2四半期 4,454百万円 26年3月期 4,387百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	7.50	—	12.50	20.00
27年3月期	—	7.50	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	7.50	15.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

26年3月期期末配当金の内訳 普通配当 7円50銭 記念配当 5円00銭

3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,066	5.0	979	3.1	977	3.0	505	13.9	115.30

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項 (1)四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項 (2)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期2Q	4,380,245 株	26年3月期	4,380,245 株
27年3月期2Q	331 株	26年3月期	274 株
27年3月期2Q	4,379,947 株	26年3月期2Q	3,814,271 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減の影響が、個人消費や企業生産を中心になお残存する一方、良好な企業収益や雇用・所得環境の改善などを背景に、マイナス影響は徐々に和らぐ傾向にあります。他方、外需は輸出が一進一退で推移するなど、景気けん引力は限定的となっております。内閣府の景気動向指数速報値によれば、4月から7月まで続いた「足踏みを示している」を8月に「下方への局面変化」に下方修正するなど回復の遅れを示しております。

一般の消費生活におきましては、消費税率の引き上げや消費者物価の上昇などで家計への負担感が増大しているほか、夏季に悪天候の日が多かったことなどもあって、消費マインドが停滞気味に推移しております。

食品業界におきましては、消費者のニーズが価格から価値に移りつつある動きを受け、流通各社がプライベートブランド商品を拡充するなど、原材料コストを考慮しつつ、高付加価値品を開発・拡販する動きが活発となっております。

このような状況下、当社におきましては、既存の収益基盤の着実な拡張を図りつつ、宅配専門店の出店や、流通各社のプライベートブランド品製造などの新販路開拓、主力商品の高付加価値化に努めました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の当社の業績は、売上高が100億41百万円（前年同四半期比2.0%増）と増収であった一方、首都圏での認知度向上を企画した戦略的な広告宣伝の投下、消費税率改定にともなうメニューブック等の改廃や販促物の投入等の施策を図ったため、販売費及び一般管理費33億52百万円（同13.7%増）を計上したことにより、営業利益が2億21百万円（同52.3%減）、経常利益が2億45百万円（同48.4%減）、四半期純利益は1億21百万円（同57.6%減）となりました。

なお、セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

①外食事業

外食事業におきましては、大阪王将および太陽のトマト麺の加盟店開拓に注力するとともに、中食市場への対応を見直し、総菜販売専門店の整理と大阪王将の宅配専門店の出店を進めました。また、創業45周年を迎えた大阪王将におきましては、ブランド食材を使用したプレミアム商品を販売いたしました。

なお、当第2四半期累計期間におきましては、加盟店24店舗（うち海外4店舗）、直営店2店舗の計26店舗を出店した一方、加盟店13店舗（うち海外2店舗）、直営店3店舗の計16店舗を閉店した結果、当第2四半期末店舗数は、加盟店402店舗（うち海外21店舗）、直営店35店舗の計437店舗（うち海外21店舗）となっております。

また、運営形態変更に伴い4店舗を直営店から加盟店、2店舗を加盟店から直営店へと変更しております。

以上の結果、外食事業における当第2四半期累計期間の売上高は、54億65百万円（前年同四半期比3.5%増）となりました。

②食料品販売事業

食料品販売事業におきましては、新規配荷先の開拓と既存配荷先への配荷量増を進めるとともに、流通各社のプライベートブランド品の製造販売を強化しました。また、大阪王将ブランドにおきましては、主力商品の簡便性や食感などを強化した、高付加価値の新商品を発売いたしました。

以上の結果、食料品販売事業における当第2四半期累計期間の売上高は、45億75百万円（前年同四半期比0.3%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債および純資産の状況

(資産の部)

当第2四半期会計期間末の総資産の残高は、前事業年度末より5億92百万円（前事業年度比5.6%）増加し、110億90百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末より2億70百万円（前事業年度比5.0%）増加し、57億25百万円となりました。主な要因は、商品及び製品、前払費用の増加および現金及び預金、売掛金の減少によるものであります。

固定資産は、前事業年度末より3億21百万円（前事業年度比6.4%）増加し、53億65百万円となりました。主な要因は、直営店新規出店および関西工場、関東工場の冷凍食品製造設備増強に伴う有形固定資産の取得、フードランナー株式会社への増資引き受け、株式会社A&Bへの第三者割当増資引き受けに伴う関係会社株式の増加によるものであります。

(負債の部)

当第2四半期会計期間末の負債の残高は、前事業年度末より5億26百万円(前事業年度比8.6%)増加し、66億30百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末より6億10百万円(前事業年度比12.5%)増加し、55億3百万円となりました。主な要因は、短期借入金および未払金の増加によるものであります。

固定負債は、前事業年度末より83百万円(前事業年度比6.9%)減少し、11億26百万円となりました。主な要因は、長期借入金の返済による減少であります。

(純資産の部)

当第2四半期会計期間末の純資産の残高は、前事業年度末より66百万円(前事業年度比1.5%)増加し、44億60百万円となりました。主な要因は、四半期純利益の計上および配当による剰余金の処分によるものであります。

この結果、自己資本比率は40.2%(前事業年度末41.8%)となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に対して2億62百万円減少し、10億71百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は1億42百万円(前年同四半期は4億53百万円の収入)となりました。これは主に、税引前四半期純利益2億22百万円の計上、減価償却費2億29百万円の計上などが増加の要因であり、たな卸資産2億25百万円の増加、前払費用の増加3億42百万円、法人税等の支払い2億19百万円などが減少の要因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は3億76百万円(前年同四半期は3億51百万円の支出)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出1億63百万円、無形固定資産の取得による支出65百万円、関係会社株式の取得による支出65百万円などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は2億55百万円(前年同四半期は2億57百万円の支出)となりました。これは主に、短期借入金の増加4億35百万円、長期借入金の返済による支出99百万円、配当金の支払い54百万円などによるものであります。

(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年5月9日付「平成26年3月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)」で公表しました業績予想に変更はございません。なお、本資料発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、今後様々な要因により異なる場合があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1)四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(2)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(税金費用の計算方法の変更)

従来、当社の税金費用については、原則的な方法により計算しておりましたが、四半期決算業務の一層の効率化を図るため、第1四半期会計期間より当事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実行税率を乗じて計算する方法に変更しております。なお、この変更による影響は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,336,455	1,076,561
売掛金	3,179,171	3,040,058
商品及び製品	479,254	623,351
原材料及び貯蔵品	152,908	233,883
前払費用	169,844	512,685
繰延税金資産	55,334	55,334
その他	81,572	183,600
流動資産合計	5,454,540	5,725,475
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,097,287	2,112,048
土地	1,089,772	1,089,772
その他(純額)	775,973	884,363
有形固定資産合計	3,963,034	4,086,185
無形固定資産	58,304	128,806
投資その他の資産		
差入保証金	528,569	548,781
繰延税金資産	104,099	104,133
その他	407,253	514,942
貸倒引当金	△17,534	△17,534
投資その他の資産合計	1,022,387	1,150,322
固定資産合計	5,043,726	5,365,314
資産合計	10,498,267	11,090,789
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,827,671	1,935,471
短期借入金	840,000	1,275,000
1年内返済予定の長期借入金	199,812	181,874
未払金	983,227	1,163,924
未払費用	235,700	242,492
未払法人税等	153,450	111,550
賞与引当金	102,136	71,018
売上割戻引当金	349,302	352,378
その他	201,909	169,544
流動負債合計	4,893,209	5,503,254

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
固定負債		
長期借入金	86,873	4,905
退職給付引当金	82,216	86,001
役員退職慰労引当金	302,450	311,490
その他	738,947	724,358
固定負債合計	1,210,486	1,126,754
負債合計	6,103,696	6,630,008
純資産の部		
株主資本		
資本金	907,239	907,239
資本剰余金	839,675	839,675
利益剰余金	2,640,626	2,706,991
自己株式	△293	△386
株主資本合計	4,387,248	4,453,521
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	728	667
評価・換算差額等合計	728	667
新株予約権	6,593	6,593
純資産合計	4,394,570	4,460,781
負債純資産合計	10,498,267	11,090,789

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	9,840,133	10,041,586
売上原価	6,426,146	6,467,247
売上総利益	3,413,987	3,574,339
販売費及び一般管理費	2,949,177	3,352,485
営業利益	464,810	221,853
営業外収益		
受取利息	648	604
受取配当金	37	40
受取手数料	2,854	2,746
受取保険金	—	25,125
貸倒引当金戻入額	12,543	—
その他	1,145	1,514
営業外収益合計	17,228	30,032
営業外費用		
支払利息	5,306	5,433
その他	378	504
営業外費用合計	5,685	5,937
経常利益	476,353	245,948
特別利益		
新株予約権戻入益	6,230	—
特別利益合計	6,230	—
特別損失		
固定資産除却損	—	18,117
店舗閉鎖損失	2,152	4,974
特別損失合計	2,152	23,092
税引前四半期純利益	480,431	222,856
法人税等	195,098	101,741
四半期純利益	285,333	121,114

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	480,431	222,856
減価償却費	204,484	229,875
店舗閉鎖損失	2,152	4,974
退職給付引当金の増減額(△は減少)	315	3,785
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	10,660	9,040
賞与引当金の増減額(△は減少)	5,482	△31,117
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△8,010	△19,900
売上割戻引当金の増減額	35,736	3,075
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△13,343	—
受取利息及び受取配当金	△685	△645
受取保険金	—	△25,125
支払利息	5,306	5,433
有形固定資産除売却損益(△は益)	—	18,117
新株予約権戻入益	△6,230	—
売上債権の増減額(△は増加)	637,855	139,112
破産更生債権等の増減額(△は増加)	12,039	—
たな卸資産の増減額(△は増加)	△58,527	△225,072
前払費用の増減額(△は増加)	△8,982	△342,742
仕入債務の増減額(△は減少)	△391,725	107,799
未払費用の増減額(△は減少)	7,425	6,792
未払金の増減額(△は減少)	△289,414	△10,097
未払又は未収消費税等の増減額	57,307	△13,569
預り保証金の増減額(△は減少)	△7,681	2,203
その他	△52,762	△27,662
小計	621,832	57,133
利息及び配当金の受取額	685	516
利息の支払額	△5,235	△5,531
法人税等の支払額	△176,906	△219,602
法人税等の還付額	13,200	—
保険金の受取額	—	25,125
営業活動によるキャッシュ・フロー	453,576	△142,358

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△3,000	△3,000
有形固定資産の取得による支出	△236,490	△163,714
無形固定資産の取得による支出	△3,636	△65,887
投資有価証券の取得による支出	—	△36,800
関係会社株式の取得による支出	△47,153	△65,000
差入保証金の差入による支出	△38,079	△26,041
差入保証金の回収による収入	7,641	1,380
その他	△30,294	△17,352
投資活動によるキャッシュ・フロー	△351,012	△376,416
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	△52,950	435,000
長期借入金の返済による支出	△111,352	△99,906
自己株式の取得による支出	—	△92
配当金の支払額	△56,899	△54,372
リース債務の返済による支出	△42,501	△24,747
新株予約権の発行による収入	6,593	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△257,109	255,881
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△154,546	△262,893
現金及び現金同等物の期首残高	815,769	1,334,455
現金及び現金同等物の四半期末残高	661,223	1,071,561

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整 (注)1	四半期損益 計算書合計 額(注)2
	外食事業	食料品 販売事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	5,278,529	4,561,603	9,840,133	9,840,133	—	9,840,133
セグメント間の内部売上高 または振替高	—	—	—	—	—	—
計	5,278,529	4,561,603	9,840,133	9,840,133	—	9,840,133
セグメント利益	385,577	137,765	523,343	523,343	△58,533	464,810

(注) 1. 当第2四半期累計期間におけるセグメント利益の調整額△58,533千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整 (注)1	四半期損益 計算書合計 額(注)2
	外食事業	食料品 販売事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	5,465,594	4,575,992	10,041,586	10,041,586	—	10,041,586
セグメント間の内部売上高 または振替高	—	—	—	—	—	—
計	5,465,594	4,575,992	10,041,586	10,041,586	—	10,041,586
セグメント利益	159,896	138,032	297,929	297,929	△76,075	221,853

(注) 1. 当第2四半期累計期間におけるセグメント利益の調整額△76,075千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。